

## 第5項 環境教育啓発事業

### 1 環境教育啓発事業

#### (1) エコライフチェック

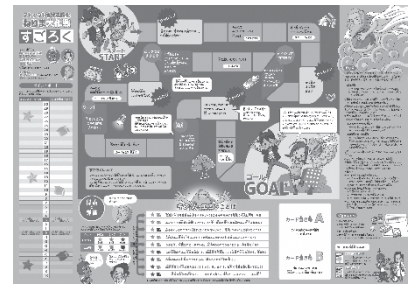
エコライフチェックとは、区民一人ひとりおよび各事業所が環境に配慮した行動（エコライフ）に取り組む日を自ら決めて実践し、普段の日の行動と比較（チェック）することで、エコライフの効果（二酸化炭素排出量の削減）を確認する啓発事業です。

この事業の特徴は、①日常行動でエコライフが実践できたかをチェックするだけなので気軽に参加できる、②エコライフの実践をチェックする「エコライフチェックシート」を区民と区が共同で作成している、という点です。

平成30年度は、区民42,213人および21事業所の取組により3.14tの二酸化炭素排出量を削減しました。

また、普及啓発用教材として、楽しみながら、日常生活で取り組める多様な環境配慮行動や、その二酸化炭素排出削減量等を学ぶことを目的として、エコライフチェックと関連させた「すごろく」を作成し、小学校に配付しました。

このほか、この事業の結果の還元を目的として、区立学校敷地にある樹木が吸収するCO<sub>2</sub>量とエコライフチェックの結果を連携させ、分かりやすく表示した樹木用プレートを希望する学校に配付しました。



ストップ地球温暖化！ねりま大作戦すごろく

#### (2) 環境作文コンクール

小・中学生の環境問題への意識・関心を高めることを目的として、昭和49年度から環境作文コンクールを実施しています。

平成30年度は、「わたしが取り組む地球温暖化対策」、「みんなに教えたいたいねりまの自然」、「わたしのもったいない活動と食べ残し」の3つのテーマに、938作品（小学生部門245作品、中学生部門693作品）の応募がありました。入賞作品は、作品集としてまとめ、区立図書館、環境課窓口、区ホームページ等で公開しています。

#### (3) こどもエコクラブの活動支援

（公財）日本環境協会が主催しているこどもエコクラブ（幼児から高校生を対象とする環境活動クラブ）の地方事務局として、子どもの環境保全活動や環境学習を支援しています。平成30年度は4クラブ352名が登録・活動しました。

#### (4) ねりまエコ・アドバイザーの活動支援

ねりまエコ・アドバイザーとは、区地域で行われる環境保全活動への助言・協力等、区の環境施策に関することを行う方々（ボランティア）のことです。区では、ねりまエコ・アドバイザー活動の支援として、フォローアップ研修を実施し、ニュースレター「ねりまエコ・アドバイザー通信」を発行しています。



環境学習の様子（学童クラブ）

また、ねりまエコ・アドバイザー相互の情報交換、連携等を図るため、平成 21 年に「ねりまエコ・アドバイザー協議会」が設立されました。

平成 30 年度は 41 名で活動し、平成 31 年 3 月 31 日現在、41 名のねりまエコ・アドバイザーが在籍しています。

平成 30 年度環境講演会（フォローアップ研修）

平成 31 年 3 月 3 日開催

講演名	世界都市農業サミット応援企画	ねりまの農業の現状と将来
講師	第一部 練馬区の農業の現状	練馬区都市農業課職員
	第二部 都市農業の意義と課題	後藤 光蔵 武蔵大学名誉教授

(5) 環境月間行事

毎年、6 月 5 日の「世界環境デー」に合わせ環境省が定める環境月間（6 月）の周知を図るとともに、区役所および区立施設で関連事業を行っています。

平成 30 年度は、練馬区地球温暖化対策地域協議会（ねり☆エコ）主催の「スタート！エコライフ 2018」に出展しました。

また、図書館 12 館、リサイクルセンター 4 か所で関連図書の展示、体験イベント等の関連事業を行いました。



環境月間周知ポスター

(6) 電気自動車、燃料電池自動車の活用

区は、地球温暖化対策に取り組む一環として、電気自動車および燃料電池自動車の導入を進めています。これらの車両は、走行中に二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）や窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）などの排気ガスを全く排出しない、静粛性に優れるといった特徴があります。また、災害時の避難拠点における緊急電源として活用することもでき、自立分散型エネルギー社会に向け大きな役割を担うことが期待されています。

区は、平成 30 年 8 月に、区内を 24 時間 365 日巡回する安全・安心パトロールカー 7 台を電気自動車に更新しました。現在、電気自動車を 10 台、燃料電池自動車を 2 台導入しています。

これらの電気自動車および燃料電池自動車は、現場調査などの日常業務をはじめ、イベント時は車両展示や車両の電力を活用した外部給電のデモンストレーション等で活躍しています。

平成 30 年度は 15 のイベントおよび避難拠点訓練等に参加しました。



練馬水素ステーションと燃料電池自動車



安全・安心パトロールカー（電気自動車）

## (7) ねりまエコスタイルフェア

ねりまエコスタイルフェアは、地球温暖化防止  
その他環境への負荷の低減に寄与する啓発活動とし  
て、節電、省エネ・省資源につながる展示・発表な  
どを行っています。

平成 30 年度は、練馬区と練馬区地球温暖化対策地  
域協議会（ねり☆エコ）との共催により、練馬まつ  
りの協賛事業として「地球に人に優しく暮らす」と  
いうテーマのもと、平成 30 年 10 月 21 日（日）とし  
まえんで開催しました。

当日は、ねり☆エコの会員団体を中心に 25 団体が出展しました。内容は、家庭での  
節電の取組紹介や省エネ・省資源につながる展示・発表、ミニステージでの紙芝居や  
省エネ演劇、エコカー展示、スタンプを押して回る「エコキャラを探せ！」など、暮  
らしの中でできるエコの啓発に取り組みました。

来場者は、練馬まつり・健康フェスティバル・練馬産業見本市の来場者とあわせて  
約 35,000 人でした。



ねりまエコスタイルフェアの様子

## (8) 節電対策

区は、身近なところからエネルギー使用の無駄を見直し、「無理  
のない賢い節電」に取り組んでいます。

平成 30 年度も、平成 29 年度に引き続き、区施設で施設利用者  
などの健康管理に配慮しながら、節電に取り組みました。夏期に  
は、家庭や事業所に節電への協力を呼びかけるポスターを区内の  
公設掲示板等に掲示しました。



夏期の節電ポスター

## (9) ねりま打ち水大作戦

打ち水の効果や楽しさを広く周知・啓発することにより、  
区民一人ひとりがヒートアイランド対策に積極的に取り組む  
契機となることを目的として、打ち水の実施呼びかけ、用具  
の貸し出しなどを実施しています。

平成 30 年度は、各家庭での取り組みに加え、区立施設や町  
会・自治会など 30 団体が打ち水を実施しました。



商店街での打ち水イベント

## (10) 練馬区民環境行動連絡会の活動支援

区の呼びかけに賛同した区民・事業者により組織された「練馬区民環境行動方針検  
討会議」は、自ら環境問題に取り組む行動を考え、実現していくために、平成 16 年 8  
月に「練馬区民環境行動方針」を策定しました。

この方針において提案されたプロジェクト案のうち、先行して取り組む項目を具体  
化するために、検討会議委員の有志を中心にグループが結成されました。平成 17 年 4  
月には、これらのグループ間の連絡・調整等を図るための組織として「練馬区民環境



行動連絡会」(以下「連絡会」といいます。)が発足し、活動しています。

区は連絡会と共催で、区民環境行動講演会を開催するとともに、広報紙の編集・発行を支援しています。その他、必要に応じて共同事業の実施、連絡会の活動への協力などを行っています。平成30年度は、区民環境行動講演会を2回開催、連絡会の広報紙「もっと！青い空」を2回発行しました。

平成30年度区民環境行動講演会

第1回 平成30年9月9日開催

講演名 地域でとりくむ省エネ・創エネ

講師 田中 信一郎氏 (一社) 地域政策デザインオフィス代表理事

真野 秀太氏 みんな電力株式会社 事業開発部部长

第2回 平成31年3月23日開催

講演名 地球温暖化と私たちの未来

講師 江守 正多氏 国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長

#### (11) 練馬区地球温暖化対策地域協議会 (ねり☆エコ)

区内の日常生活に起因する温室効果ガスの排出抑制に必要な取組を協議し、企画・実施するため、平成22年5月に設立されました。

平成23年度に区民公募により、「ねり☆エコ」という愛称になりました。

練馬区をはじめ、区民団体、事業者団体、教育関係者、学識経験者、行政関係機関など29会員で構成されています。

平成30年度には「ねりまエコスタイルフェア」のほか、国が定める環境月間や地球温暖化防止月間、省エネルギー月間に合わせ、「どう向き合う？地球温暖化」「環境にやさしい発電 実験してみよう！燃料電池ってなんだろう？」「私たちが直面する2つの気候変化～地球温暖化とヒートアイランド～」をテーマとする講演会を行いました。

また区民向けに、地球温暖化・省エネに関する練馬区民意識調査の実施、小学3年生から中学2年生を対象に、地球温暖化に関するテーマに沿った作品を募集する「こどもエコ・コンクール」などの事業を実施し、啓発活動を進めました。さらに、地球温暖化対策に寄与する民間イベントの後援、地域イベントへの協力など、節電・省エネ・省資源を働きかけ、温室効果ガスの排出抑制を啓発しています。